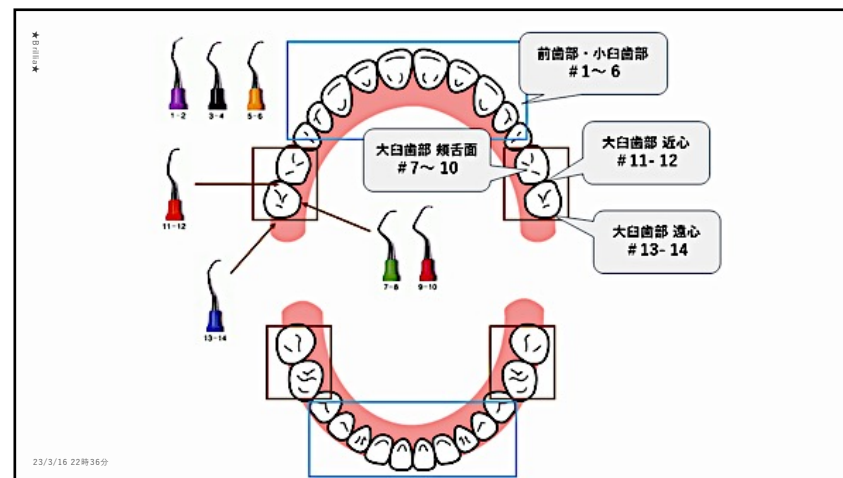
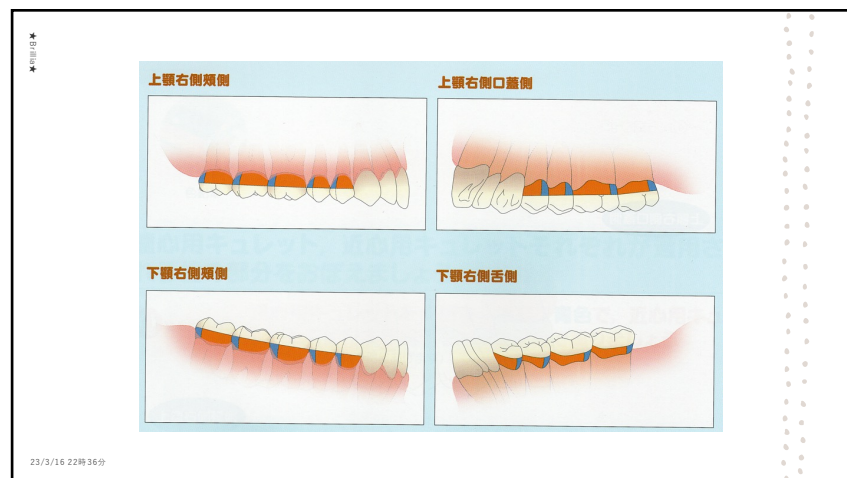


スケーラーの操作方法

1



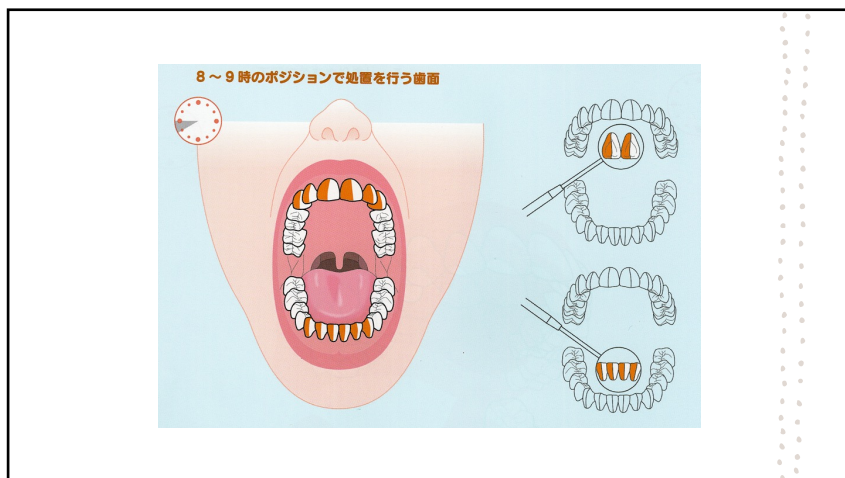
2



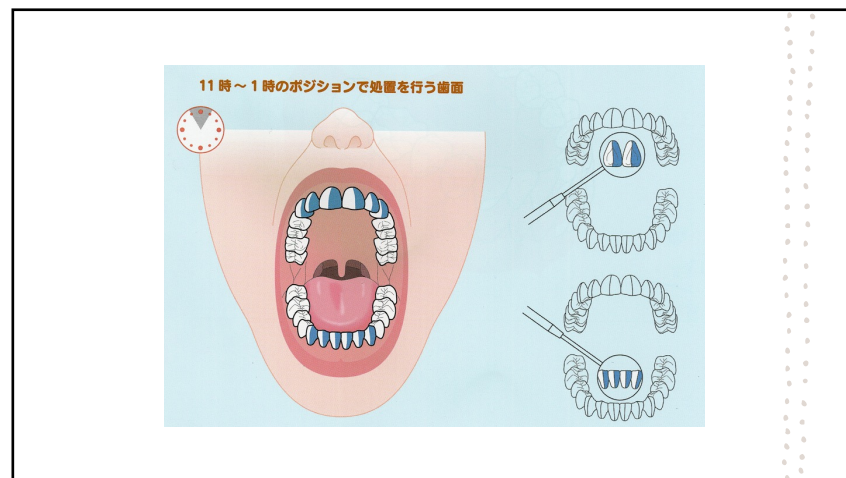
3



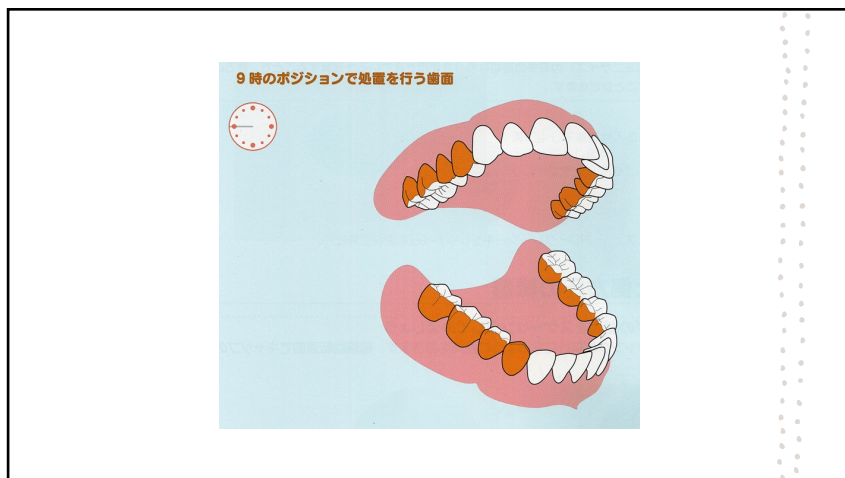
4



5



6



7




8

スケーラーの持ち方

陥りやすい持ち方

- × 親指を内側に反らせている。
- × 手首を曲げている。

◇ このような持ち方で反復作業を繰り返すと
腱鞘炎や手根管症候群の原因となる。

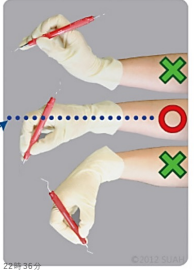



正しい持ち方 改良ベングラスプ法

Step

1. グローブは、手首を締め付けないサイズを着用。
2. 手首をニュートラルポジションにし、ハンドルを親指と人差し指で円を描くようにつまむ。
3. 中指を添え、把持する。ハンドルは、人差し指の付根あたりに置く。
4. レストは薬指。

Q: 手首のニュートラルポジションとは?
A: 手首をまっすぐ伸ばした状態。
例えば、力をこめて「グ」を作ったときの手首の状態で、一番無駄なく「力」を入れることができる。

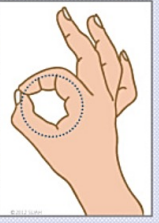




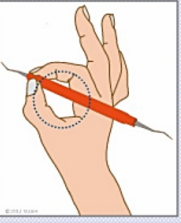
★Brillia★ 23/3/16 22時36分

9

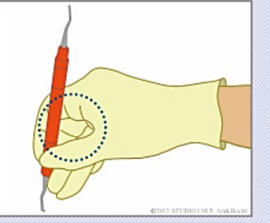
正しい持ち方確認法



OKサインを作る。



そのままハンドルをつまむ。



親指と人差し指は、円形を維持する。
手首はニュートラルポジション。

23/3/16 22時36分

10

執筆状変法

第1指(親指)、第2指(人差し指)、第3指(中指)の3本で把持し、第4指(薬指)を添える



23/3/16 22時36分

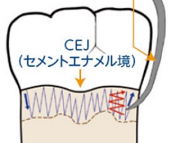
11

歯石探知

目的

- ① 歯面・根面・CEJの確認
- ② 歯石の探知 (SRP適応部位の決定)
- ③ SRP終了の評価


第1シャンクが歯面に平行



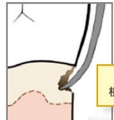
CEJ (セメントエナメル境)

Key


- ★ 改良ベングラスプ法にて、軽くハンドルを把持。
- ★ 根面全体をジグザグ&オーバーラップストローク。
- ★ 鋭いチップの先端は使わない。
- ★ 側方圧は加えない。



ざらざら感
歯石の可能性



<ぼみ
根面う蝕の可能性



引っかかり
不適合な充填物や
辺縁の破折

23/3/16 22時36分

12

歯石の状態 根面の状態 補綴物の適合 齧蝕

①大きく多量の歯石が沈着している ②歯石が点在して沈着している ③根面の表面が波打っているような歯質や傷がある ④補綴物がオーバーマージンとなっている ⑤補綴物がアンダーマージンとなっている ⑥齧蝕により根面に凹みがある

図 1 エクスプローラーで感じられるさまざまな歯面の状態 (Trott JR, 1961 を元に作成)

23/3/16 22時36分

13

デジタル (digital) モーション
指先を使う動作

Key

- ★ エクスプローリング、プロービング及び超音波スケーラー使用時のテクニック。
- ★ 軽い力で把持し動かす。

Step

1. レストは薬指/手のひら全体。
2. 指先(親指~中指)でエクスプローラー等を持ち上げる。
3. 歯面を触る感覚を指の腹で受ける。
4. 側方圧は加えない。

23/3/16 22時36分

14

ローテイング (rotating) モーション
手首・前腕を回転する動作

Key

- ★ SRPのベーシックテクニック。
- ★ 正確に身に付けることで用途が広く有効。
- ★ 軽~中度の歯石除去に。

Step

1. レストは薬指/手のひら全体。
2. 手首を僅かに回転(ドアノブを廻すように肘から回転させる)。
3. 側方圧を加える。

23/3/16 22時36分

15

ロッキング (rocking) モーション
手首・前腕の上下の動作

Key

- ★ 最もパワフルなテクニック。
- ★ 多量の歯石除去に効率的。
- ★ 確実なコントロールが必要。

Step

1. レストは薬指。
2. 根面にカッティングエッジを確実にコンタクトさせる。
3. ブレードは、肘を僅かに下げ、前腕を沈める動作で動かす。
4. 対して指は、根面に側方圧をかける。
5. この拮抗する動作をコントロールしながら、ゆっくり上方に僅かに動かす。
※軟組織を傷つけるリスクが増大するので、手首で跳ね上げる操作は間違い!

23/3/16 22時36分

16

① 挿入角度 0°~40°
 ② SRP時角度 60°~80°
 ③ 側方圧と停止

★ キュレットのフェイスを歯面に沿うように当て、エクスプローリング(探知)するようやさしい力で挿入する。

★ 第1シャンクが歯面に平行。そのときフェイスは、根面に対して70°になっているため、カッピングエッジは確実に歯石を捉えている。

★ エッジが歯石を捉えたら、側方圧を加えながら、短いストロークを加える。

★ ストローク終了は、引き抜くのではなく、確実に止めて終了する。

23/3/16 22時36分

17

スケーラーの当て方

図16 ターミナルシャンクに対しフェイスが70° になっているグレーシーキュレットは、ターミナルシャンクを歯根面にに対し平行に当てた場合も70°になる。この状態であることが大切。85°を超えると作業効率は悪くなる。

23/3/16 22時36分

18

ターミナルシャンクは施術面に対し平行

図17 ターミナルシャンクは歯軸に平行にするのではなく、処置をする歯根面に対し平行にする。

23/3/16 22時36分

19

★ グレーシー13/14 臼歯部遠心面
 斜行ストローク 垂直ストローク

★ 最後歯の遠心面 水平ストローク 斜行ストローク

ブレード挿入点 遠心隅角部

★ グレーシー11/12 臼歯部頬/舌側面/近心面
 斜行ストローク 斜行ストローク 垂直ストローク

23/3/16 22時36分

20

ブレードの使用部位

図18-a、b ブレードは主に先端1/3を歯根面に当てて使用するが、ブレード全体を意識して操作しないと、ヒール部分で歯肉を傷つけてしまう可能性がある。

23/3/16 22時36分

21

インストルメントの作業角度

グレースィキュレットは第一シャックに対してブレードが70度になっているので、第一シャックをインストルメンテーションする面に平行にすると、カッチングエッジが歯面に適切な角度で当たっていることになる。歯肉縁下の処置ではカッチングエッジを直視できないので、第一シャックを指標にする。

「インストルメントの名称」
「ブレードの名称」▶ P.13

23/3/16 22時36分

22

側方圧のコントロール

歯石除去が目的のインストルメンテーションでは、強～中程度の側方圧を用い、歯石が除去されるにつれて弱い側方圧にしていく。

歯石が沈着している部位を弱い側方圧でインストルメンテーションすると、歯石を研磨して(バーニッシュ)取り残しの原因になる。また、過度の側方圧は根面を削り過ぎるので(オーバーインストルメンテーション) 注意しなくてはならない。

◎歯石を除去する時の側方圧

側方圧	歯石沈着が多量・バーニッシュされた歯石 ⇒ 強い
	変性セメント質・粗造面の除去 ⇒ 弱い

One Point

多様な根面の状態、インストルメンテーション中の根面の変化に応じて、側方圧をコントロールできることがインストルメンテーションの上達ともいえる。

23/3/16 22時36分

23

バームダウンレスト

バームアップレスト

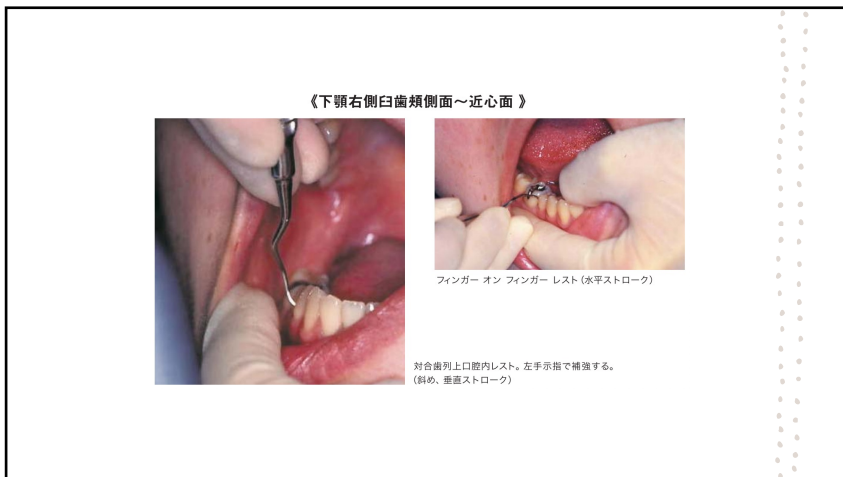
バームダウンレスト：しっかり固定するため手のひらを少し丸めて下顎を押さえる。

バームアップレスト：目の背面を当て、手と前腕を引くストロークを行う。

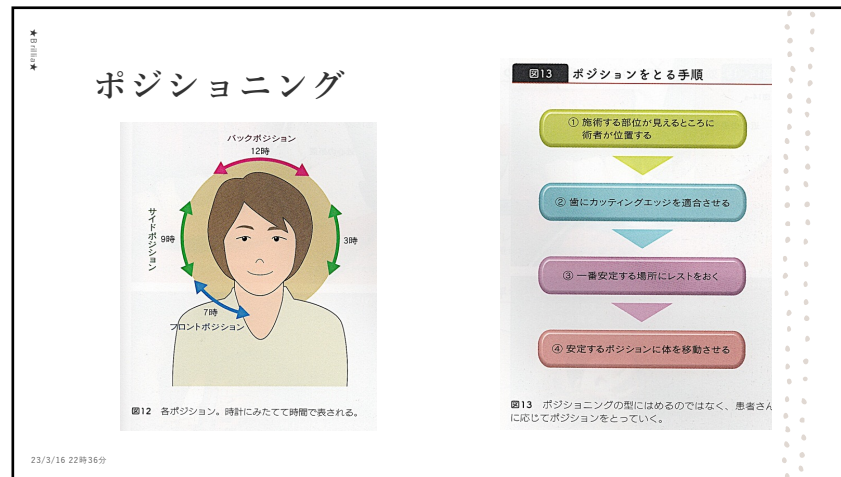
左手で補助する。

23/3/16 22時36分

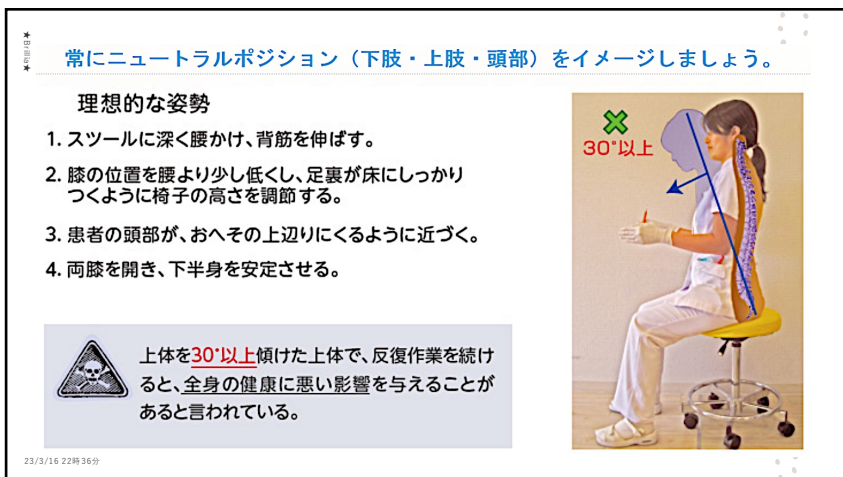
24



25



26



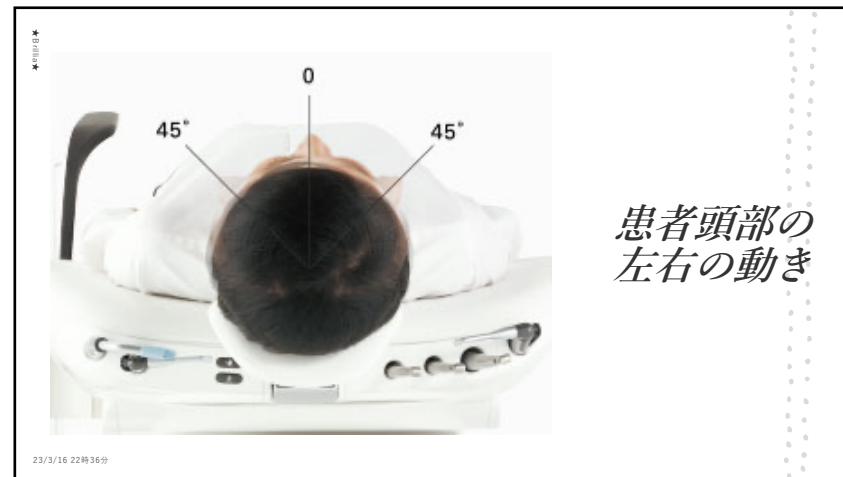
27



28



29



30



31



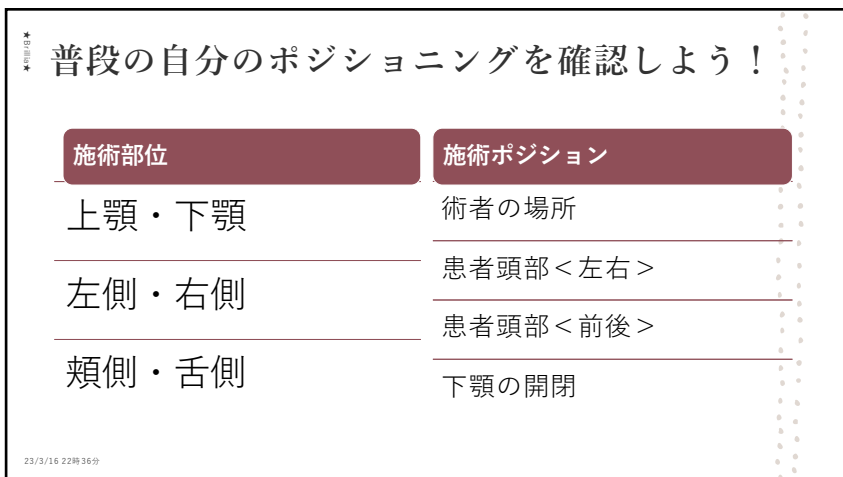
32



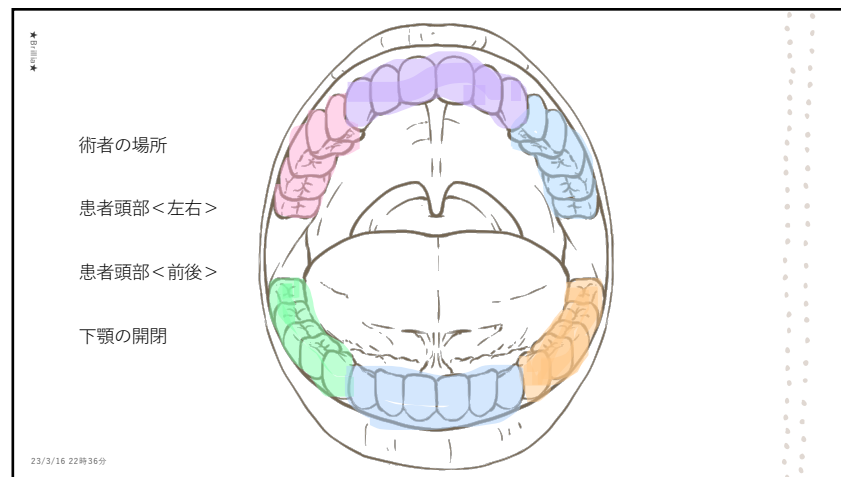
33



34



35



36